

第51回衆議院議員総選挙  
(1月27日公示・2月8日投開票)

投票に行こう!

毎日が投票日、「期日前投票」を活用しよう!

期日前投票は投開票日の当日、仕事・用事・レジャーや買物、悪天候等で投票所に行けないと見込まれる時には、投開票日の前でも投票ができる制度です。

※投票所の入場券が届いていなくても、無くした場合でも、選挙人名簿に登録されていれば投票できます。

◆時 間：原則午前8時30分から午後8時まで

◆期 間：公示日の翌日から投開票日の前日まで

◆場 所：各市町村に一カ所以上設けられる「期日前投票所」

※市町村によって時間と場所が異なりますので、お住まいの選挙管理委員会のホームページなどでご確認ください。

衆議院議員選挙は

小選挙区と比例代表選挙区の2つに別れており、各々に投票します。

小選挙区：各選挙区の立候補者から1名候補者を選んで記入します。

比例代表選挙区：自分が応援する政党名を記入します。

小選挙区

候補者氏名

比例代表

政党名

各々の小選挙区で、最多投票を得た候補が当選します  
各政党の得票率に応じて当選者が振り分けられます棄権しないで  
必ず投票しよう!

2026 1月・2月

公示日の翌日から投開票日の前日まで

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27 公示日	28	29	30	31
期日前投票期間						
2/1	2	3	4	5	6	7
期日前投票期間						

8

衆議院議員総選挙投開票日

# 『政治に無関心でいられても、無関係ではいけない』



## ● わたしたちの未来のために ●

明るい選挙推進協会が実施したアンケートによると、**政治に不満を抱えている人が6割**近くいる一方、「投票は義務」「投票を棄権すべきでない」という人は46%にとどまっています。

また、投票については「する、しないは個人の自由」と答えた人は52%であり、この人たちが全員投票することで投票率の大幅アップにつながる可能性があります。

日本においては、現役世代の大きなテーマである教育への公的支出の割合は極めて低いことがあげられ、経済協力開発機構(OECD)の資料によると、**日本の教育機関に対する公的支出の割合は最低レベル**で推移しており、GDP比でOECD加盟国およびパートナー諸国の下位25%に入っています。

雇用情勢の悪化に伴い、親の経済力が低下し、かつては2割程度だった奨学金利用者は年々増加し、およそ大学生の2人に1人が何らかの奨学金を利用しています。

また、不安定雇用や低賃金により、卒業しても返済に苦しんでいる若者も多く、滞納理由で最も多い回答は「本人の低所得」で6割を超えています。



主要欧米諸国(英国、アメリカ、スウェーデン、ドイツ、フランス)とわが国の社会保障の給付について比較してみると、日本の場合は高齢期を中心とした構造となっており、家族関係支出や積極的労働市場政策といった比較的若い世代を念頭に置いた支出はそれぞれ1.58%、0.15%に過ぎず、極めて低い水準となっています。

	日本	英国	アメリカ	スウェーデン	ドイツ	フランス
家族関係支出	1.58%	3.46%	0.64%	3.54%	2.28%	2.93%
積極的労働市場政策	0.15%	0.19%	0.10%	1.27%	0.63%	1.00%

資料出所:令和2年版厚生労働白書(日本は2017年度、諸外国は2015年度)

日本では、福祉、社会保障の費用の多くが公債でまかなわれています。それは、**将来世代への負担の先送り**を意味しており、このままでは**若者や次の世代は、受益どころか負担ばかり**負わされることになりかねません。

**若い世代の投票率は、いずれの選挙でも他の世代と比べて低く、上の世代と大きな差があります。**最近では、衆議院選挙・参議院選挙ともに、20歳代の投票率は全体の投票率に比べて20ポイントほど低くなっています。

2024年に行われた第50回衆議院選挙の年代別投票率は、20歳代の34.62%に対し、60歳代は68.02%と2倍近い差がありました。また、2024年10月1日時点の人口推計では、20歳代の約1,272万人に対し、60歳代は約1,484万人と1.2倍近い差がありました。それらを掛けあわせると、20歳代の投票数は約440万票、60歳代は約1,009万票と、票数では約2.3倍の差となります。

こうした**投票率の差**により、**現役世代の声が政治に届きにくくなっている**状況にあります。

**現役世代の声を政治に反映させるために、ひとりひとりが自覚し、投票に行くことが必要です。**



**連合なんでも  
労働相談ダイヤル**

相談無料

秘密厳守

携帯・スマホOK

連合ホームページではメールによる相談を24時間受け付けています。

どうしよう? 困った!  
労働問題で悩んだら、  
まず連合に相談しよう!



イコウヨ レンゴウニ  
**0120-154-052**